

地域福祉をめぐる情勢と これからの宮城県内の社協の役割とは

今後の地域福祉活動と地域福祉活動計画策定について

東日本震災から1年9カ月が経過し、宮城県内では復興に向けてさまざまな取り組みが行われています。県内の市町村社会福祉協議会（以下「市町村社協」）では仮設住宅やみなし仮設住宅で暮らす方々の生活支援など、地域の実状に合った方法で支援を展開しています。今号では10月9日に開催された宮城県内市町村社協地域福祉担当者会議において、ルーテル学院大学の市川一宏学長からご講演いただいた内容を紹介します。



ルーテル学院大学
学長 市川 一宏氏
早稲田大学、日本社会事業学校を卒業。東洋大学大学院で社会学を専攻し修了。
ルーテル学院大学教授・学長。
ロンドン大学LSEに留学。
三鷹市社協副会長、全社協民生委員・児童委員研修体系検討委員会委員長を務める。
著書は「知の福祉力」（人間と歴史社）など。

多様化する地域の生活課題

地域の生活課題は、少子高齢化、ひきこもり、虐待、貧困、限界集落の問題など多様化し、広がりを見せています。これらの生活課題から言えることは、地域社会は孤立という問題に直面しているということ、人や地域との交流が乏しくなり、必要とするさまざまな情報やサービスが届かず孤立することで、抱えている問題が潜在化し、さらに深刻化していきます。孤立は虐待や自殺を引き起こす大きな要因となります。

今後、宮城県内では東日本大震災で被災した沿岸部の仮設住宅や県内のさまざまな地域に点在するみなし仮設住宅などで、このような孤立の問題が懸念されており、セーフティネット（最後の安全網）の再生が急務

務になっていきます。

いま、社協に求められていること

そのような状況の中で、いま社協に求められていることは、社協に何が求められ、何をできるかを考え、実施していかねばならないということ、社協はこれまで、地域のボランティアの育成やいきいきサロンでの人のつながりづくり、限界集落においての支え合いづくりなど、その地域に合った形でさまざまな事業を展開してきました。

どの事例をみても、その地域の実状に合わせ、ニーズに沿って、事業化する視点がとても重要であることがわかります。つまり、人材、施設・機関、サービス・活動、住民関係

まずは地域の課題を住民と共有する

地域関係などの地域資源を把握し、それらを活用し、つないで、地域を協働で再生する主軸になることが、社協に求められていると思います。

地域福祉活動計画（以下「計画」）



の策定や住民とともに地域づくりをする際に、基本的に考えておかなければならないことは、地域の生活課題を、できるだけ多くの住民やボランティア、また行政や社会福祉法人、NPOなどの専門職が把握し、共有することから始めてほしいということです。そうすることで、それぞれの役割が見えてきます。次に、役割を確認しどのように進めていくのかという、合意形成が大切になります。それには住民間や、住民と行政など、多様な合意形成を目指す必要があります。

※地域福祉活動計画とは地域住民や福祉などの関係団体が地域福祉の推進に主体的に関わるための具体的な活動をまとめた、市町村社協が策定する計画です。

地域福祉活動計画の必要性とねらい

その合意形成を形にするためにも計画をつくる必要性が生まれます。社協が計画を策定するということは、地域が向かうべき未来を描くということであり、住民、行政や関係機関にもそれらを伝えていくことでもあります。そして計画は住民を中心に、地域福祉を推進するさまざまな関係者との合意と取り組みをできるだけ具体的に示したものであると言えます。

すなわち、1地域の福祉課題・問題を共有し、2目指すべき地域社会を描き（ほっとワーク）、3協働する人材、組織を開拓、確認し、4それぞれに役割を合意し、5討議・解決プロセスを明確にし（ネットワーク）、6迅速に予防・解決のため、広報・啓発を含めたさまざまな実践を展開する（フットワーク）ことをねらいとしています。

なお、計画の策定と実施に際しては、自分たちの組織の力量と社協の組織としての課題を確認し、改革していくことが必要であり、計画は職員にとつてのよいOJTとなります。



計画をより推進していくために

いま社協をはじめとした、社会福祉の事業の担い手には、住民・利用者から選ばれるサービスか、組織が問われています。これをひも解くと、住民・利用者の満足度の視点につながります。住民、関係者・関係機関とともに、できたこと、できなかったことを確認し合う場もとても大切です。そうすることにより住民からの信頼も増していきます。

次に、要望に対する迅速な対応と経過説明が求められます。実施できない場合もそれを説明し、これからの方向性などを話し合うことが大切です。批判し合うのではなく、課題

を共有し、どのように住民と協働していくかを考えるということ、一緒にみんなで考え、協働する場をつくる、というコーディネーションへの期待が、社協への期待でもあります。そこを忘れずに、抱え込まずに、協働しながら実施してほしいと思います。

市川先生からのポイント



皆さんの社協では、私たちはこういうことをしますという1分間または、3分間メッセージを持つていますか？私たちが何をしたいのかということ、自ら理解した上で、短時間で伝えられなければ、相手にはなかなか伝わりません。

始めることから始めましょう

私がこれまで策定に関わった計画には、必ず社協の強化計画を入れてきました。そうしなければ計画の推進体制が見えてきません。今日、申し上げたことは、いくつかの社協で実施し、実践していることです。特殊なものではありません。市町村社協にそれぞれの市町村に合った計画を策定していただき、それを県社協にバックアップしていただきたい。

まずは、その地域で一步を踏み出していき、始めることから始めましょう。完璧なものでなくとも、一步一歩進んでいくことが大事です。一つ一つ進む中で、明日の社協が見えてきます。それぞれの社協らしく夢を持ち、そして地域の住民のために取り組んでいただきたいと思います。

